

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ

報告数12,404件、前月比0.9前年比1.4です、1月からは減少していますが、この3年間では最も大きな流行です。報告数が最も多いのは、天草で報告数1,459件、定点あたりでは208.4でした。県全体の定点あたり報告数の平均が155.1で、これより多いのは、天草の次は宇城(定点あたり202.2)、菊地(同187.3)、人吉(同180.4)、山鹿(同178.7)、八代(同169.0)でした。最も少なかったのは御船で357件(同71.4)でした。県下各地で定点あたりも、報告数も3桁でした。保育園から小学生に渡る年齢層を中心として全年齢層から多くの報告があります。

小児科定点

(全体傾向)

報告総数14,758件(前月比0.89、前年比1.18)でした。前月比・前年比も大きくは動いていないようです。その他の疾患では、RSウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性連鎖球菌、感染性胃腸炎などが前月より増加しています。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告数87件(前月比1.7、前年比1.3)と例年に比して12月に93件、1月が52件、2月が87件と2月に増加しているように見えますが年単位で見れば、例年同様に減少傾向にあると考えられます。菊地の報告数35件(定点あたり7.0)が最多でした。他の地区からは一桁の報告数で、阿蘇・御船・天草からの報告はありませんでした。年齢は、0歳と1歳を中心としています、5歳での報告もあります。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数132件(前月比1.3、前年比1.2)です。1月からは増加していますが、ほぼ例年同様の推移です。菊地の報告数78件(定点あたり15.6)、が際だって多いようです。そのためか県平均2.6を越えているのは有明の報告数15件(定点あたり3.0)のみですが、御船(0件)・水俣(0件)を除く各地からの報告があります。年齢層では1歳を中心とした報告です。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数265件(前月比1.3、前年比0.6)です。1月からは増加していますが、例年よりは少ない報告です。水俣の報告数が20件(定点あたり10.0)、次いで菊地39件(同7.8)に多く、次いで熊本・報告数108件、(定点あたり6.8)、宇城の24件(同6.0)でした。山鹿(0件)を除く各地からの報告で4~5歳を中心とした幅広い報告です。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,441件(前月比1.1、前年比0.7)とこの3年では最も少なくなっています。天草の報告数定点あたり8.5が最も少ないのですが、他の地区でも二桁の報告数で、定点あたりで、三桁の報告は有りませんでした。有明327件(定点あたり65.4)、山鹿101件(同50.5)、菊地243件(同48.6)に多かったのですが、この他の地区で県平均28.8を超えた所はありませんでした。全年齢層から二桁以上の報告があります。
5. 水痘 : 報告数31件(前月比0.5、前年比0.4)と、昨年9月から突然増加していましたが、今年に入り急に減少しています。年齢別でみると、0歳の報告は無く、1歳に4名あり、2歳と3歳の報告はありませんでした。平成26年(2014年)10月から定期接種が始まったので、開始時の接種対象者は、現在3歳となります。1歳児での罹患者に未接種者が多ければ、流行予防の効果が出ていると考えられ今後の推移に注目したいと考えます。定期化された年(平成26年10月)の報告が261件ですので、件数は少なくなっています。阿蘇・人吉を除く県下各地からの報告ですが、定点あたりの報告が1件以上あったのは、水俣2件、宇城4件(ともに定点あたり1.0)だけでした。全体的に減少してきていますが、保育園から小学校低学年からの年齢では少数でも報告があり、また1歳での報告もありますので「1歳の誕生日接種」と

もに集団生活をする年齢層への任意接種の勧奨も必要でしょう。

6. 手足口病 : 報告数39件(前月比0.5、前年比0.4)と、例年並に推移しています。人吉8件(定点あたり2.0)、熊本22件(同1.4)に多いようです。その他の地区で県平均0.8を越えたのは、宇城の4件(同1.0)だけでした。
7. 伝染性紅斑 : 報告数4件(前月比1.3、前年比0.4)です。熊本2件、菊地・有明の各々1件のみです。0歳~2歳まで各々の1例、10~14歳に1例でした。
8. 突発性発疹 : 報告数126件(前月比1.2、前年比1.0)と、例年同様の推移です。二桁の報告数があるのは、菊地30件(定点当たり6.0)、有明20件(同4.0)、熊本43件(同2.7)、八代10件(同2.5)でした。2歳から11件、3歳と5歳から1件ずつの報告がありました。
9. ヘルパンギーナ : 報告数19件(前月比1.3、前年比0.5)で、例年同様の推移です。天草15件(定点あたり3.8)と有明4件(同0.8)以外からの報告はありません。2歳を中心とした報告です。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数17件(前月比0.9、前年比0.1)と、昨年1月からからの漸減傾向は続いています。阿蘇・御船・八代・人吉・天草からの報告はありません。報告は、水俣3件(定点当たり1.5)、菊地5件(同1.0)、宇城4件(同1.0)でした。報告の年齢は、2歳以上です。予防可能な疾患であり、2016年(平成28年)に流行があったので、3~4年周期の流行と考えれば、今年積極的に接種干渉を行えば効果的と考えられます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告はありません。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数 47 件(前月比 1.2、前年同月 0.9)と前月より漸増しています。熊本 36 件、菊池 2 件、有明 8 件、天草 1 件と熊本以外では有明地区の多発が目立っています。年齢別では 20~49 歳にピークがありますが、60 歳以上の発症も目立ちます。乳幼児層における感染拡大の傾向は前月同様認められません。

STD定点

※平成 25 年 1 月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が 13 医療機関から 16 医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 : 報告数54件(前月比1.2、前年比1.0)で、前月比は増加し、前年比は同数でした。男女別は、男性28件、女性26件でした。年齢別は、男性は20~64歳、女性は15~49歳に見られます。地域別は、熊本が37件、次いで宇城6件、御船4件、八代、有明各3件、菊池1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 : 報告数30件(前月比1.6、前年比1.1)で前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性17件、女性13件で、男性に多く見られます。年齢別は、男は25~70歳以上、女性は20歳~70歳以上に見られます。地域別は、熊本23件、次いで八代4件、菊池2件、宇城1件でした。
3. 尖圭コンジローマ : 報告数8件(前月比0.8、前年比2.0)で、前月比は減少し、前年比は増加しています。男女別は、男性3件、女性5件でした。年齢別は、男性は30~39歳に見られ、女性は15

～64歳に見られます。地域別は八代3件、次いで熊本、宇城各2件、御船1件でした。

4. 淋菌感染症：

報告数11件（前月比0.5、前年比0.6）で、前月比、前年比共に減少しています。男女別は、全例男性でした。年齢別は、男性は15～64歳に見られました、地域別は、熊本が9件、次いで八代、宇城各1件でした。

基幹定点

（月報分）

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：

報告数は26件（前月比：1.0、前年同月比：1.2、男女比：15/11）で横向き推移しています。熊本地区（10）、阿蘇地区（5）、八代地区（2）、人吉地区（3）、有明地区（4）、天草地区（2）と広範囲に認めます。0歳（1）、10-14歳（1）もありますが、70歳以上（19）をピークに60歳以上で集中して検出されました。

▼H29と比較して例年並みかやや多めでの推移です。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数は3件（前月比：0.4、前年同月比：0.8、男女比：2/1）で減少傾向にあります。熊本地区（1）、有明地区（2）の報告でした。1-4歳（1）、60-64歳（1）と70歳以上（1）でした。

▼H29は以後春季における増加を認めました。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-）でした。前月に引き続き報告はありませんでした。

▼H29.3月（1）以降引き続き報告はありません。

（週報分）

1. 細菌性髄膜炎：

報告数は1件（前月比：0.5、前年同月比：1.0）で例年通りの推移でした。熊本地区（1）からの報告でした。65-69歳（1）でした。

▼H29では2月以後急激な増加に転じていましたので注意が必要です。

2. 無菌性髄膜炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で報告はありませんでした。

▼H29では今後春以降の報告が増加する傾向にありました。

3. マイコプラズマ肺炎：

報告数は8件（前月比：2.0、前年同月比：0.5）で例年に比べて少な目に推移しています。熊本地区（2）、水俣地区（4）、人吉地区（1）、有明地区（1）からの報告で0歳（1）、5-9歳（2）、10-14歳（3）、60-64歳（2）でした。

▼H29では年間を通じて概ね月あたり10件程度の報告で推移していました。

4. クラミジア肺炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で前月に同様、報告はありませんでした。

▼H29には報告はありませんでした。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数は5件（前月比：-、前年同月比：0.7）で例年並み増加傾向を認めています。熊本地区（5）の報告でした。1-4歳（1）、5-9歳（4）でした。

▼H28, H29同様に初春における急激な増加が見込まれますので注意が必要です。

届け出対象感染症

1類感染症：報告はありませんでした。

2類感染症	: 結核	21件
3類感染症	: 腸管出血性大腸菌感染症	1件
4類感染症	: レジオネラ症	1件
5類感染症	: アメーバ赤痢	1件
	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	2件
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	1件
	侵襲性肺炎球菌感染症	5件
	梅毒	6件
	百日咳	2件